

### 寄贈図書リスト

- ①西はりま天文台の星空日記 世界最大の公開望遠鏡「なゆた」で見る星の世界へようこそ！、大島誠人、

- A5判, 212ページ, 2,000円+税, あげび書房  
②彗星の科学 知る・撮る・探る, 鈴木文二 秋澤宏樹 菅原賢, B5判, 152ページ, 2,600円+税, 恒星社厚生閣

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailでtoukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

### 人事公募

#### 東京大学宇宙線研究所 教授

1. 職名及び公募人員：教授1名
2. 職務内容（専門分野）等：東京大学宇宙線研究所附属重力波観測研究施設に所属し、KAGRA検出器の運用と観測運転を通じて重力波天文学を推進し、また、定期的に行われるKAGRA検出器の性能向上に関する方針の策定とその実施に責任をもってあたる方を求めます。着任後は、上記と並行して、KAGRAが国際共同観測を行うための国際コラボレーションにおける議論において主導的な役割を担うことも求められます。さらに、安全管理も含めた重力波観測研究施設の運営にも中核的立場で参画していただきます。  
※変更の範囲：配置換、兼務及び出向を命じることがあります。（意に反して命じられることは原則ありません。詳細は東京大学教員の就業に関する規程第4条によります。）
3. 勤務地：東京大学宇宙線研究所附属重力波観測研究施設（岐阜県飛騨市神岡町）  
※変更の範囲：本学の指定する場所（配置換又は出向を意に反して命じられることは原則ありません。詳細は東京大学教員の就業に関する規程第4条によります。）
4. 応募資格：博士号を取得していること
5. 着任時期：決定後、なるべく早い時期
6. 任期：なし
7. 待遇：給与は本学の規定に基づき経歴等により決定します。保険は文部科学省共済組合と雇用保険に加入します。

8. 就業日・就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日あたり7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
9. 休日：土・日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
10. 休暇：年次有給休暇、特別休暇等
11. 応募書類：以下（1）から（6）までの書類をEメールに添付して提出してください。応募書類の電子ファイル形式はpdfとします。（応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。）
  - （1）履歴書（市販の様式相当、電子メールアドレスを必ず記入のこと）
  - （2）研究歴（A4判で3ページ以内）
  - （3）着任後の研究計画（A4判で3ページ以内）
  - （4）業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等、外部資金獲得状況等）、及び主要論文別刷（5編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
  - （5）着任可能時期
  - （6）学生に対するセクハラ・性暴力等を原因とする過去の刑事罰、行政処分及び懲戒処分にかかる申告書  
※（6）については以下URLから様式をダウンロードください。  
<https://proself.icrr.u-tokyo.ac.jp/public/kv2cAAAnP9ERAtI0B4m-PaXyksfRZ0XTwTKCHopOB5XHB>
12. 応募締切：2024年12月23日（月）正午必着
13. 選考：選考委員会による書類選考を行い、最終選考は、面接によります。（面接を受けていただく方には詳細を連絡します。）

14. その他:
- (1) 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。
  - (2) 外為法等の定めにより、採用時点で、海外との兼業や、外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があることから、このような場合、兼業等については、本学における研究上の技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります。
  - (3) 試用期間あり（6月間）
  - (4) 受動喫煙防止措置の状況：敷地内禁煙（屋外に喫煙場所あり）
15. 送付先：  
Eメール application\_at\_icrr.u-tokyo.ac.jp  
（メールを送信する際は\_at\_を@に直してください）メールの件名に公募番号の「ICRR2024-05」を明記してください。
16. 問い合わせ先：重力波観測研究施設長  
三代木伸二  
電話 0578-85-2343  
Eメール miyoki\_at\_icrr.u-tokyo.ac.jp  
（メールを送信する際は\_at\_を@に直してください）
17. 募集者名称：国立大学法人東京大学

## 東京大学宇宙線研究所 特任研究員（プロジェクト研究員）

1. 職名及び公募人員：特任研究員（プロジェクト研究員）1名
  2. 職務内容（専門分野）等：ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡等の最新観測データを用いて宇宙初期における銀河形成を探る研究に従事する。  
※変更の範囲：配置換、兼務及び出向を命じることがあります。
  3. 勤務地：宇宙線研究所（千葉県柏市柏の葉5-1-5）  
※変更の範囲：原則同一部局内
  4. 応募資格：雇用の時点で博士号を取得していること
  5. 着任時期：2025年4月以降なるべく早い時期
  6. 任期：雇用は年度ごとに更新し、任期は3年とします。  
任期満了時に新たな人事公募があった場合の再応募（同一プロジェクトで1年間の再応募の可能性はある。）は可能ですが、東京大学宇宙線研究所
- 特任研究員としての通算雇用期間は6年を超えることはできません。（ただしプロジェクトを異にする場合を除きます）
7. 待遇：「東京大学特定有機雇用教職員の就業に関する規程」に規定する特任研究員とします。「東京大学年俸給給与の適用に関する規則」に規定する基本年俸俸給表2号俸（月額300,000円）、及び業績・成果手当として月額30,000円を支給予定です（合計基本月額330,000円支給予定）。保険は文部科学省共済組合・雇用保険に加入、手当は通勤手当を支給します。
  8. 就業日・就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日あたり7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
  9. 休日：土・日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
  10. 応募書類：以下（1）から（5）までの書類をEメールに添付で提出してください。（6）の推薦書又は意見書は、作成者からEメールに添付で応募締切日までに提出してください。応募書類・推薦書・意見書の電子ファイル形式はpdfとします。（応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。）
- (1) 履歴書（市販の様式相当、博士号の有無、電子メールアドレスを必ず記入のこと）
  - (2) 研究歴（A4判で2ページ以内）
  - (3) 業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、及び主要論文（3編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
  - (4) 着任可能時期
  - (5) 着任後の研究計画（A4判で2ページ以内）
  - (6) 本人に関する推薦書又は意見書2通
11. 応募締切：2024年12月10日（火）正午必着
  12. 選考：選考委員会による書類選考（第一次審査）を行い、最終選考は、面接によります。（面接を受けていただく方には詳細を連絡します。）
  13. その他：
    - (1) 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。
    - (2) 外為法等の定めにより、採用時点で、海外との兼業や、外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があることから、このような場合、兼業等については、本学における研究上の技術の

共有に支障のない範囲に留める必要があります。

- (3) 試用期間あり (14日間)
- (4) 受動喫煙防止措置の状況: 敷地内禁煙 (屋外に喫煙場所あり)
- (5) 産前・産後休暇及び育児休業による中断期間分を雇用延長することがある。(プロジェクトの状況等による。詳細は応相談)

14. 送付先:

Eメール application\_at\_icrr.u-tokyo.ac.jp  
(メールを送信する際は\_at\_を@に直してください)  
メールの件名に公募番号の「ICRR2024-08」を明記してください。

15. 問い合わせ先: 宇宙線研究所助教 播金優一

Eメール hari\_at\_icrr.u-tokyo.ac.jp  
(メールを送信する際は\_at\_を@に直してください)

16. 募集者名称 国立大学法人東京大学

**東京大学宇宙線研究所附属  
神岡宇宙素粒子研究施設 特任教授**

1. 職名及び公募人員: 特任助教 若干名
2. 職務内容(専門分野)等: 本研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設に所属し、ハイパーカミオカンデ検出器の建設およびコミッションング、運転維持に従事するほか、同検出器を用いた宇宙・素粒子研究に参加してもらいます。  
※変更の範囲: 配置換、兼務及び出向を命じることがある(意に反して命じられることは原則ない。詳細は東京大学教員の就業に関する規程第4条による。)
3. 勤務地: 宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設(岐阜県飛騨市神岡町)  
※変更の範囲: 本学の指定する場所(配置換又は出向を意に反して命じられることは原則ない。詳細は東京大学教員の就業に関する規程第4条による。)
4. 応募資格: 雇用の時点で博士号を取得しているか、確実に取得できる見込みの者。性別・国籍・研究経歴によらず、広く関連する研究分野から活発な応募を期待します。
5. 着任時期: 令和7年4月1日かそれ以降のできるだけ早い時期
6. 任期: 雇用は年度ごとに更新し、最長で5年間とします。
7. 待遇: 「東京大学特定有期雇用教職員の就業に関する規程」(平成16年4月1日制定)に定め

る特任助教とします。同規程に基づき、給与は経歴により決定します。保険は文部科学省共済組合と雇用保険に加入、手当は通勤手当を支給します。

8. 就業日・就業時間: 専門業務型裁量労働制により、1日7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
9. 休日: 土・日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
10. 応募書類: 以下(1)から(6)までの書類をEメールに添付で提出してください。(7)の推薦書又は意見書は、作成者からEメールに添付で応募締切日までに提出してください。応募書類・推薦書・意見書の電子ファイル形式はpdfとします。(応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。)
- (1) 履歴書(市販の様式相当、博士号の有無・取得見込み、電子メールアドレスを必ず記入のこと)
- (2) 研究歴(A4判で3ページ以内)
- (3) 業績リスト(論文リスト、研究発表リスト等)、及び主要論文(3編以内)。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
- (4) 着任可能時期
- (5) 着任後の研究計画(A4判で3ページ以内)
- (6) 学生に対するセクハラ・性暴力等を原因とする過去の刑事罰、行政処分及び懲戒処分にかかる申告書
- (7) 推薦書又は意見書2通  
※(6)については、以下URLから様式をダウンロードください。  
<https://proself.icrr.u-tokyo.ac.jp/public/kv2cAAAnP9ERAtI0B4m-PaXyksfRZ0XTwTKCHopOB5XHB>
11. 応募締切: 2024年12月18日(水) 12時必着
12. 選考: 選考委員会による書類選考(第一次審査)を行い、最終選考は、面接によります。(面接を受けていただく方には詳細を連絡します。)
13. その他:
  - (1) 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。
  - (2) 採用時点で、外国法人、外国政府等と個人として契約している場合や、外国政府等から金銭その他の重大な利益を得ている場合、外為法の定めにより、一定の技術の共有が制限さ

れ、結果として本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があります。このような場合、当該契約・利益については、職務に必要な技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります。

- (3) 試用期間あり (14日間)
- (4) 受動喫煙防止措置の状況: 敷地内禁煙 (屋外に喫煙場所あり)
- (5) 産前・産後休暇及び育児休業による中断期間分を雇用延長することがある。(プロジェクトの状況等による。詳細は応相談)

#### 14. 送付先:

Eメール: application\_at\_icrr.u-tokyo.ac.jp  
(メールを送信する際は\_at\_を@に直してください)  
件名に公募番号の「ICRR2024-11」を明記してください。

#### 15. 問い合わせ先:

神岡宇宙素粒子研究施設長 塩澤真人  
電話 0578-85-9611  
Eメール masato\_at\_km.icrr.u-tokyo.ac.jp  
(メールを送信する際は\_at\_を@に直してください)

#### 16. 募集者名称 国立大学法人東京大学

## 会務案内

### 会長候補者選挙結果

日本天文学会定款第17条および会長・副会長・理事・監事選考細則(以下、細則)に基づき行いました会長候補者の選挙について、結果を次のように報告します(細則第9条)。

推薦された候補者は太田耕司氏1名だったため、細則第6条により投票は行わず、太田耕司氏を会長候補者としました。

なお、この結果は、細則第9条に基づき理事会および代議員に報告いたしました。

(選挙管理委員会委員長 長尾透)

### 日本天文学会 2024 年秋季年会報告

2024年秋季年会は、9月11日(水)から13日(金)までの3日間、関西学院大学神戸三田キャンパス(兵庫県三田市)にて開催された。遠隔地から参加していただけるように、現地およびオンライン(ベストエフォート)のハイブリッド開催であった。講演は現地で行っていただくことを原則としたが、子育てや介護

など特別の理由がある場合はオンライン講演も受け付けた。年会参加者数は、会員992名、非会員77名の計1,069名(うち現地参加者は724名)であった。講演件数は口頭講演(a)が512件、ポスター講演(b, c)が126件で、計638件の講演があった。2件の企画セッションと、天文教育フォーラム、特別セッション、および受賞記念講演も開催された。開催地である関西学院大学および参加者の皆様のご理解とご協力により、大きなトラブルなく、有効な年会とすることができた。参加者・関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げたい。座長は次頁の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する(敬称略)。

#### <記者会見>

日本天文学会2024年秋季年会記者会見は、9月10日(火)13:00からオンラインにて開催された。冒頭、百瀬副会長による挨拶、日本天文学会の組織・活動概要の説明、及び、本年秋季年会の紹介が行われた。それに続き、百瀬副会長の司会・進行により、学術発表2件が行われた。当日は報道機関から7名、それ以外の関係者5名の参加があった。多くの全国紙・地方紙(オンライン版含む)やウェブメディアにおける報道、研究機関のホームページでの紹介が幅広く行われていることを確認している。

#### 学術発表その1

2024年5月のオーロラの原因となった太陽嵐の電波観測に成功

岩井一正(名古屋大学)

#### 学術発表その2

大学で展開する飛翔体天文学

松浦周二(関西学院大学)

(百瀬宗武)

#### <企画セッション>

「超小型衛星活用による天体物理観測の新展開」

世話人: 中川貴雄, 玉川徹, 榎戸輝揚, 米徳大輔, 谷津陽一, 坂本貴紀

超小型衛星を用いた天体観測ミッションの本格的な活動が始まろうとしている。日本においても赤外線からガンマ線に至る幅広いミッションが計画され、その内のいくつかはすでに軌道上での観測を開始した。さらに、今後1-2年の間に打上げを控えるミッションも多い。この機をとらえ、超小型衛星による天体物理観

	9月11日		9月12日		9月13日	
	9:30-11:40	13:00-15:10	9:30-11:40	13:00-15:10	9:30-11:40	13:00-15:10
A	太陽 下条圭美 (国立天文台)	太陽 山崎大輝 (宇宙航空研究開発機構)	太陽 鳥海森 (宇宙航空研究開発機構)	太陽 草野完也 (名古屋大学)	宇宙論 並河俊弥 (東京大学)	宇宙論 樽家篤史 (京都大学)
B	星間現象 立原研悟 (名古屋大学)	星間現象 勝田哲 (埼玉大学)	星間現象 鈴木寛大 (宇宙航空研究開発機構)	星間現象 佐野栄俊 (岐阜大学)	星間現象 田中孝明 (甲南大学)	
C	活動銀河核 道山知成 (周南公立大学)	活動銀河核 三好真 (国立天文台)	星形成 渡邊祥正 (芝浦工業大学)	星形成 徳田一起 (九州大学)	星形成 元木業人 (山口大学)	星形成 百瀬宗武 (茨城大学)
D	原始惑星系円盤 塚本裕介 (鹿児島大学)	原始惑星系円盤 逢澤正嵩 (茨城大学)	原始惑星系円盤 田中圭 (東京工業大学)	惑星系 飯野孝浩 (東京大学)	惑星系 大野和正 (国立天文台)	
E	教育・広報・他 林左絵子 (東京大学)	教育・広報・他 山岡均 (国立天文台)	恒星進化 高橋亘 (国立天文台)	恒星進化 茂山俊和 (東京大学)	恒星進化 守屋堯 (国立天文台)	恒星進化 鈴木昭宏 (東京大学)
F	観測機器 中島拓 (名古屋大学)	観測機器 今井裕 (鹿児島大学)	観測機器 高倉理 (KEK)	観測機器 米倉覚則 (茨城大学)	XRISM 山口弘悦 (宇宙航空研究開発機構)	XRISM 松下恭子 (東京理科大学)
G	銀河 太田耕司 (京都大学)	観測機器 馬場俊介 (宇宙航空研究開発機構)	観測機器 森谷友由希 (国立天文台)	観測機器 津村耕司 (東京都市大学)	観測機器 山田亨 (宇宙航空研究開発機構)	観測機器 永田伸一 (京都大学)
H	超小型衛星 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)	超小型衛星 玉川徹 (理化学研究所)	観測機器 佐藤浩介 (QUP/KEK)	観測機器 寺田幸功 (埼玉大学)	観測機器 桂川美穂 (京都大学)	観測機器 沼澤正樹 (東京都立大学)
I	コンパクト天体 中島基樹 (日本大学)	コンパクト天体 小島康史 (広島大学)	コンパクト天体 鷹野重之 (九州産業大学)	コンパクト天体 志達めぐみ (愛媛大学)	コンパクト天体 坂本貴紀 (青山学院大学)	
J	銀河団/銀河形成 藤田裕 (東京都立大学)	銀河形成 菅原悠馬 (早稲田大学)	銀河形成 長尾透 (愛媛大学)	銀河形成 伊藤慧 (東京大学)	銀河形成 後藤友嗣 (清華大学(台湾))	銀河形成 稲見華恵 (広島大学)

測の現状認識と、将来への展望を議論するために、本セッションを企画した。

本企画セッションでは、4つの基調講演を設定した。まず、金岡充晃氏(CSP Japan)から、超小型衛星を用いた天体物理観測の世界での現状についてのレビューが行われた。他の3つの基調講演は、海外の超小型衛星・天体物理ミッションの紹介である。Keith Jahoda氏(NASA/GSFC)からは、NASAにおける超小型衛星・天体物理プログラムの概要と、すでに多くの成果をあげている軟X線広域サーベイミッションHaloSatの紹介があった。Jeremy Perkins氏(NASA/GSFC)からは、打ちあがったばかりのガンマ線バースト観測ミッションBustCubeの紹介があった。さらに、Norbert Werner氏(Masaryk University)からは、チェコ初のスペース望遠鏡となるキロノバ観測衛星QUVikの紹介があった。

一般講演では、以下に示すように、日本が関わる多くのミッションを取り上げた。

- 運用中: Ninja Sat (理研, X線), こよう (金沢大, X線突発天体監視速報), CAMEROT (広島大他, ガンマ線バースト)
  - 開発中: ARICA2 (青学, 速報実証), うみつばめ (東工大, 紫外線突発天体), INSPIRE (東工大/早稲田, MeVガンマ線), VERTECS (九工大/ISAS/関学/都市大他, 可視光背景放射), MAUVE (Blue Skies Space/京大他, 紫外線)
  - 構想中: MoMoTarO (京大他, 月の水資源探査等), SEIRIOS (東大/名大, 宇宙干渉計), X線対応天体探査 (青学), SGI (名古屋大他, sub-MeV帯域), Euryops (宇宙研, スターシェード技術実証)
- 個別のミッションに加え、関連技術(X線望遠鏡)

や、宇宙気象現象が超小型衛星軌道に与える影響の議論もあった。上記の衛星の内、運用中の衛星はすでに成果をあげつつある。さらに、1-2年で打ち上げられるミッションも控え、今後、多くの成果が期待される。

本企画セッションには、現地で約70名、さらにオンラインで約50名の参加者があり、活発な議論が行われた。従来の「波長別の枠組みを超えた」議論が大変に有意義であるとの意見が多かった。さらに、超小型衛星の開発が、中型・大型の衛星の開発にも良い影響を与えることへの期待も語られた。超小型衛星の将来性に鑑み、この企画セッションを単発では終えず、将来にむけ継続的に発展させていく必要性が参加者の間で議論された。

「XRISM衛星がひらく高エネルギー天文学」

世話人：松下恭子，田代信，山口弘悦

XRISM衛星は2023年9月に打ち上げられた。初期機能確認運用から定常運用に移行し、半年間のPerformance Verification (PV) 期の観測の後、国際的な公募観測により採択された天体の観測も始まっている。軟X線分光装置の保護膜はまだ開いていないものの、当初の目標を上回るエネルギー分解能を達成し、高温プラズマの速度の精密測定や物理状態の解明など様々な成果が得られ始めている。軟X線撮像装置も広視野の観測を順調に続けている。XRISM衛星の現状と初期観測の成果についての講演と他分野との連携などについて議論を行うことを目的として本企画セッションを開催した。

本企画セッションは年会最終日の9月13日の午前午後の計4時間20分で行われた。まずは衛星の研究主宰者である田代信氏からXRISM衛星の現状報告が行われた。衛星開発からデータ解析まで活躍している比較的若手の4名の方に基調講演をお願いした。志達めぐみ氏にブラックホールや中性子星など銀河系のコンパクト天体について、内田裕之に超新星残骸や銀河系中心など、野田博文氏に活動銀河核について、佐藤浩介氏に銀河団について、PV観測期の成果のハイライトとその意義を講演していただいた。一般講演には28件の申し込みがあり、時間の制約によりXRISM衛星によるさまざまな天体の観測結果について11件の口頭講演、1件のポスター講演の他にXRISMチーム外の理論研究者や他波長の研究者による4件の口頭講演を行っていただいた。XRISM衛星の成果についてはじめてまとまった講演が行われたこともあり、参加者は現地会場で100名以上、オンラインのみの参加者

も数十名以上と盛況であり、活発に質疑応答が行われた。さまざまな分野の研究者にもご参加いただき、他分野との連携のきっかけとなる議論も行われた。今後の公募観測においても連携が広がっていくことが期待できそうである。XRISM衛星の実現のためにご協力いただいた天文学会会員の方々、JAXAのみなさま、衛星開発に多大な貢献をしていただいたXRISM科学チームのみなさま、本企画セッションに関心を持っていただいたの方々、年会実行委員の方々に感謝します。

〈特別セッション〉

「みんなで天文学の未来を語ろう!〜日本天文学白書委員会発足〜」

世話人：天文学白書委員会第1期委員

赤堀卓也 (国立天文台)、石川遼子 (国立天文台)、岡本桜子 (国立天文台)、河原創 (JAXA/宇宙科学研究所)、高橋慶太郎 (熊本大学・委員長)、田中雅臣 (東北大学)、富田賢吾 (東北大学)、野田浩司 (千葉大学)、野田博文 (東北大学)、米徳大輔 (金沢大学)

年会最終日の9月13日(金) 15:30-17:00に本特別セッションがハイブリッド形式で開催されました。これは2024年5月に設置された「日本天文学白書委員会」のキックオフ的なセッションで、会員の皆さんに天文学白書と委員会の趣旨を理解していただき、今後コミュニティ全体で白書を作っていこうという気運を醸成する目的がありました。参加者人数は現地が約65名、オンラインが約90名と多くの方に参加していただきました。

本セッションではまず委員長の高橋から委員会設立の趣旨が説明されました。これまで日本学術会議や国立天文台、そして光赤天連や宇電懇など天文学のサブコミュニティで大型観測装置の将来計画が活発に議論されてきました。一方、天文学コミュニティ全体で日本の天文学の将来が議論されることはあまりありませんでした。そこで日本天文学会員が波長横断・分野横断で天文学全体について楽しく語り合う場を作り、議論を通して天文学コミュニティを成熟させていくことを目的として天文学白書委員会が設置されました。今後、特別セッションやワークショップなどを通して将来のサイエンスとそれを可能にするために必要なもの(技術、ITインフラ、持続可能なコミュニティ作り、社会との関わりなど)について議論し、その成果として天文学白書をまとめていきます。天文学白書や委員会の趣旨とスコープはまた改めて別の記事で詳しく説明します。

高橋の講演の前半は上記の趣旨説明であり、後半は

宇宙論の未来に関する講演でした。そして2人目の講演者は同じく第1期委員の富田で、「星惑星形成研究の将来—私が定年になる前に」というタイトルで星惑星形成研究の来し方行く末について講演しました。この2人はともに天文学者としての人生の真ん中あたりにおり、自分達が院生だった20年前頃と比べて現在どこまで発展したか、そして20年後にはどのようなになっているだろうかということを想像・期待する講演でした。最後は「みんなで天文学の未来を語ろう」と題するパネルディスカッションで、石川、岡本、田中、野田（博）、米徳の5人の委員をパネラーとし、聴衆も大いに巻き込んでそれぞれが思い描く天文学の未来について自由に語り合いました。この聴衆の中には今後の特別セッションで講演者として参加する人も出てくることでしょう。

#### 〈天文教育フォーラム〉

2024年9月11日(水) 16:20-17:50、天文教育フォーラムが開催された。本フォーラムは日本天文学会と日本天文教育普及研究会の共催で天文学会の年会の会期中に行われている。今回は、「天文教育を支えるエコシステム」というテーマで開催され、会場・オンライン総計110名強の参加があった。小中高校や大学といった学校教育、公開天文台や科学館、プラネタリウムなどによる社会教育や生涯学習、天文愛好家や星空案内人などによる市民活動など、さまざまな場がつながり天文教育を支える「エコシステム」が日本各地に存在するが、個々の要素ごとに焦点を当てられることが多く、森全体をシステムとして把握する試みはあまりなされていない。今回の天文教育フォーラムでは、そのシステムがどのように成立しているのかを読み解くとともに、近隣との関係やより大きな視点から見たシステムについても議論することを期待して企画された。モデレータとして富田晃彦氏（和歌山大学、前天文教育委員長）を迎え、前半の話題提供パートでは、大学と高校（及び中学）での実践経験について、天文教育の視点から中申考志氏（甲陽学院中学校・高等学校）、地学教育の視点から川村教一氏（兵庫県立大学、地学教育学会会長）、一方で、社会教育施設の立場から吉岡克己氏（大阪市立科学館）の3名に話題提供をお願いした。後半のパートではモデレータ・話題提供者に加え現場の中学教員の立場として柴原由香氏（兵庫県立大学附属中学校）にも登壇していただき、参加者全体でディスカッションを行った。

中申氏からは、大学教員から中学・高校教員へ異動した経験から話題提供をしていただいた。大学教員の時はジオパークや地域住民など地域と連携した活動事

例を紹介され、他の何かと関連させることで関心を持ってもらうことの重要性を指摘された。現在の勤務先では受験校という観点から課外活動での対応、また出題側から対応側に異動したという点で、講義内容に興味を持たせて対応すること、さらにエコシステムという観点からいまままで天文教育の場面で触れられてこなかった塾など受験産業を巻き込むことの重要性を指摘された。

川村氏からは、「フォーマル・インフォーマル・ノンフォーマル地学教育」と題して、先行の中申氏とは対称的に高校教員から社会教育施設や大学教員という経歴から、学校教育や学校外教育、さらには意欲ある生徒への手助けとしてのノンフォーマル教育それぞれに対してこれまでの経験からの話題提供をしていただいた。日本の教育政策におけるサイエンスパートナーシップなど学校教育への外部支援利用の動きや地学オリンピックにおける参加者への対応、情報提供をするwebページに対する解説記事の理解度のチェックなどの事例紹介を、人的リソースをどのように確保していったかという観点などにも具体的に紹介していただいた。

オンラインでの参加となった吉岡氏からは、「科学館での天文教育：『連携』と『協働』と『広場』」と題して、連携の核になりやすい社会教育施設からの観点で話題提供をしていただいた。導入として「科学館とは」として、科学館は博物館であることを確認したうえで、近年の国内外含めた博物館をめぐる状況の変化による期待される役割の変化、博物館の枠組みの中での科学館の特徴を踏まえたうえで、これまでの実施した事例を科学館における日常業務以外の天文教育事業を自らの主催を含めた内部資源利用や資料や学芸員などのリソース提供など「連携・協力事業」、他機関との「協働事業」、そして科学館のサポーターに対する事業など参画舞台としての「広場事業」に分類することにより、科学館と外部との結びつきがどのようになっているかを概説していただいた。

参加者からの質問では、川村氏の講演からフォーマル・インフォーマル・ノンフォーマル教育それぞれについての概念の定義や、インターネット上である程度知識が得られる時代にどのようにそれぞれの教育が対応すべきか、教員として発達段階に応じた質問対応をすべきか、などの話題が挙がった。

話題提供された内容は登壇者それぞれの視点から俯瞰したものであるが、活動した地域特有の限定されたものというわけではなく、他の地域にも共通する問題意識があったうえでの展開内容であったと思われる。天文や地学にかぎらず、あらゆる科目で地域での教育

リソースを有機的につなげていかに展開するかが「エコシステム」を維持するための課題になり、教育者はもちろん研究者もそれぞれの立場で「エコシステム」の一部として参画することもあるだろう。今回のフォーラムがそういった今後の活動において一助になれば幸いである。

(大朝由美子)

#### 〈欧文研究報告論文賞受賞記念講演〉

年会2日目の9月12日(木) 17:20から、2023年度の欧文研究報告論文賞の受賞記念講演が行われた。講演者および講演タイトルは以下の通りである。若手研究者の熱意ある講演に参加者は大いに刺激を受け、質疑応答も大変活発に行われた。

浜名崇 (国立天文台) 「HSC コスミックシア二点相関関数による宇宙論解析」

前原裕之 (国立天文台) 「せいめい望遠鏡を中核とした多波長同時観測で迫る恒星フレアの放射機構」

#### 〈保育室〉

関西学院大学神戸三田キャンパス内の常設育児スペースをお借りして保育室を開設した。本年会では1家族1名が保育室を利用した。保育室の準備にあたり、関西学院大学スタッフの方々に様々なご協力をいただいたことを感謝する。

#### 〈公開講演会〉

本年度の公開講演会は、2024年9月14日(土)の13:00-15:30に、兵庫県三田市、三田キッピーモール6階のまちづくり協働センターで開催した。テーマは、「南極から探る宇宙の姿」と題して、日本天文学会が主催、関西学院大学が共催の形で実施した。講師は、中井直正氏 (関西学院大学 フェロー) 及び、望月優子氏 (理化学研究所 仁科加速器科学研究センター 雪氷宇宙科学研究室 室長、埼玉大学大学院 理工学研究科 連携教授) の2名、司会は瀬田益道 (関西学院大学) が担当した。

「南極天文台から銀河と宇宙の謎に挑む」と題した中井氏の講演では、天文学の歴史や身近な天体の基礎的な話にはじまり、ブラックホールの誕生と進化の関係という先端的な天文学の話題まで、多くの図を含めたスライドで、分かりやすい解説をして頂いた。さらに、南極の晴天率の高さや蒸気の少なさ等、天文学を行う上での南極の特徴を、実際に南極で撮影した映像を交えての説明があり、現在進行中の30 cm望遠鏡のプロジェクトや12 m電波望遠鏡を南極に設置する計画を紹介して頂いた。

望月氏の講演では、「南極の氷からひもとく地球と宇宙とのつながり」と題し、南極大陸内陸部のドームふじ基地で採取されたアイスコアの研究を紹介して頂いた。アイスコアをどのように切り出し、分析するかは、実際に手を動かした研究者による臨場感に溢れる説明であった。大気循環や大気中での化学反応の素過程も含め、大気中の微量成分がアイスコアに蓄積される機構を丁寧に説明し、過去の気候変動や火山活動に加え、超新星爆発の痕跡がアイスコアに現れる可能性を実際の測定データを基に説明して頂いた。最後には、私たちとの住む地球と宇宙とのつながりに関しての言及もあり、余韻の残る講演であった。

参加者は、50人程度と、想定よりも大幅に少なかったが、その分講演や講演終了後の質疑応答は、アットホームな雰囲気の中で行われた。講師の皆様、関係者の皆様、参加者の皆様、どうもありがとうございました。

(瀬田益道)

(年会実行委員長 廿日出洋)

#### 入会・移籍・退会のお知らせ

2024年9月9日に開催された公益社団法人 日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

入会 正会員：130名 準会員：14名

退会 正会員：4名 準会員：6名

移籍 準→正：2名



天文月報オンラインのユーザ名とパスワード

ユーザ名: asj2024

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字) と **vol117** (6文字) の計 11 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

編集委員: 津村耕司 (委員長), 岩崎一成, 小野寺仁人, 勝田哲, 川中宣太, 西澤淳, 仏坂健太, 岡本文典, 日下部展彦, 小山翔子, 志達めぐみ, 鈴木大介, 鳥海森, 信川久美子, 橋本拓也, 宮本祐介

令和6年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487

振込口座: 郵便振替口座00160-1-13595 日本天文学会

三菱UFJ銀行 三鷹支店 (普) 4434400 公益社団法人 日本天文学会

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会 2024 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)